



## 埼玉りそな銀行川越支店（川越市）

2014年8月 訪問  
埼玉モダンたてもの学生レポーター  
埼玉大学教養学部 島澤 陽平



大正7年に、現在の埼玉りそな銀行の前身である第八十五銀行本店として建てられ、現在も店舗として利用されています。

蔵造りの町並みの中にあって、白色の外壁と青緑色のドームが、まちのシンボルとして、風景に違和感なく溶け込んでいます。

今回特別に、埼玉りそな銀行さんにご協力をいただき、旧頭取室の、2階応接室を見学させていただきました。

窓口や業務フロアなどは、現在の業務内容に合わせて改修がなされていますが、応接室については、ほぼ建築時のままで、当時の雰囲気を感じられます。

いまの建物と比べて、天井が高く、開放感のある空間です。



応接室には、澁澤栄一の自書による「順理則裕」という額が掲げられています。

これは宋の程頤（ていがん）の言葉で、「道理を生きることが、繁栄につながる」という意味で、栄一の座右の銘でした。



ドアノブも、レトロな雰囲気を出しています。

「引」の書体が独特！

現代の機能的なものとは違って、とてもおしゃれな感じになっています。

応接室内にはこんなものも！  
なんと、鬼瓦が保存されていました。  
幅が1m程あって、その大きさに驚きます。  
この鬼瓦は、第八十五銀行が設立された当時の土蔵に使用されていたものです。  
中央には、当時の紋章も付いていて、歴史がうかがえます。



現在、埼玉りそな銀行では、戦前に建てられた建物で営業をしている店舗は、ここ川越支店だけであるといいます。  
そのため、この店舗で仕事ができることを誇りに思ってる行員の方が多いそうです。